
幼なじみと同居！

miyou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼なじみと同居！

【著者名】

miyou

N2358P

【作者名】

【あらすじ】

高校2年生の佐藤悟は、同じく幼なじみの高校2年の山田加奈子に恋をする。しかし、悟は、いつも加奈子と口げんかで、なかなか告白することができない。そんなある日、加奈子は悟だけに引っ越しすことができず、告白もできずに困っていた。悟は加奈子の親友の、田中沙紀から聞いた悟がとつた行動とは・・・

第1章 加奈子の・・・（前書き）

小説を書く2作目のやつですが、暇がありましたら是非見ていただければなあと思つておつまます。どうぞよろしくお願ひします。

俺は、佐藤悟、高校2年生である。俺は、ある女の子に恋をしているのだ。

その子の名前は、山田加奈子、俺の小学校からの俺の幼なじみだ。そいつは天然だけど、かなりかわいいんだ。加奈子は俺を好きになるわけがない。なぜなら、いつも口げんかをしているからだと思う。そいつは、俺の事を悟と呼び、俺は加奈子と呼ぶ。俺は加奈子に悟と呼ばれるだけで胸がキュンとなってしまう。

ある朝のことだった。俺はいつもの通り学校へ行つていると···。『悟、おはよう!』と加奈子が挨拶してきた。俺は、この声を聞いてるドキドキしてしまつ。

そして、いつもの通り、「加奈子、おはよう!」と挨拶をした。

いつも、加奈子とは会話が弾む。そして今日も、「悟、相変わらず来るのが遅いね。」「うるさいなあーお前のほうから来るのが遅いじゃないか!」「うるさいこつて何よ!悟のバカ!」「お前のほうこそ馬鹿じゃないか!」「バカってひどい!」つていう会話なのだが、いつもは、バカって言つたら泣かないはずなのに、なぜか、今日は泣いていた。どうしたのだろうと思つたが、俺は馬鹿なことを言つてしまつた。俺は本当は加奈子ことをこんなにも好きなのに···。「泣くな!どうせ嘘泣きだと思うけど!」加奈子はそしてこう言つた。「嘘泣きじゃないもん!悟は何も気づかないの!悟のほうが天然でバカだと思うけど!」加奈子はそう言つて、走つて行つてしまつた。俺はなんてことを言つてしまつたのだろう。

俺は、あいつがなんで泣いたのか分からなかつた。そして、加奈子が言つた。俺が加奈子の事で気付かないことは何だろつと思つた。しかも、加奈子に好きだと言えない俺のほうがバカだと思つた。

第一章 加奈子の · · · (後書き)

第2話もぜひ見てください。

引っ越しの・・・

俺は、次の日加奈子と話そうと思つたが、加奈子は来ていなかつた。俺に加奈子の親友、田中沙紀たなかさきは、「あれ、悟君何も聞いてないの？」加奈子は、5ヶ月後くらいに引っ越しすんだって。今日は、偶然、風邪で休んでるけど。加奈子は、悟の事が好きなんだよ！好きなら早く、告白してあげなきや。」俺は、そのことを聞いてビックリした。加奈子が引っ越しすることも、加奈子も俺の事が好きだったってこと。なんでも、もつと早く気付いてやらなかつたんだろうって後悔をした。だからあの時、加奈子は、引っ越しから泣いていたのだ。あと、俺が加奈子の気持ちも気づいてやれなつた。加奈子は、俺の事が好きだつたのだ。だつたらあの時に告白しとけばよかつた。

俺は、部活が終わつた後、加奈子の家まで走つて向かつた。

加奈子の隊・・・(前書き)

皆さん久しぶりで「あんなも」。

俺は、加奈子の家に行つて家のチャイムを押した。けど加奈子は出ではくれなかつた。

最後のチャンスだと思い、もう一回チャイムを押した。

そして、加奈子は出た。

「加奈子、引つ越すつて本当か?」「なんで悟が知つてるの?」「お前の親友から聞いた。なあ本当なの?」「沙紀に教えてもらつたのね。そうだよ本当だよ。」「なんで!?」

「でも親は私を連れて行く気ないみたい。」「だつたら!」「私ね好きな人いるの。その人のためにも離れるんだ。」俺は、ビックリした。まさか加奈子に好きな人がいるなんて・・・しかし俺は。「だつたら俺のところで暮らせばいいおれもちょうど1人暮らしだつたからさみしかつたし」「ありがとう。じゃあそつきさせてもらつわ。明日からよろしくね。」俺は嬉しくてたまらなかつた。しかし加奈子に好きだつてことが言えなかつた。加奈子に好きだつて言えるのはもう少し後のことだつた。

加奈子の家・・・（後書き）

悟と加奈子はつこに回顧することになりました。この後悟と加奈子の間にどうなるのか楽しみにしてください。

私は、山田加奈子。悟とは幼なじみですぐに悟とはケンカをしてしまふ。

実は、悟の事が今でも好きなのだが、悟は気づいてくれない。

ある日私は、両親に呼ばれ、「加奈子、俺たち引っ越すことになつた。もちろん、加奈子も一緒にだ。」

そして私は、「なんで、嫌だよ!」と言つたが両親は、「そんなのはだめだ。なんなら俺たちと一緒に行くか、ここに残るか決めなさい。ただし、俺たちはもうここには戻つてこないぞ。それでもいいならいいけど。」と言つた。私は、迷わず「ここに残る!」と言つた。両親は、「分かった。加奈子がそうしたいならここに残ればいい。でもそれでいいのか?」と言つた。私は、「いいよ。」と言つた。

この時私は、両親とは暮らさないが、ある決意をしていた。悟と一緒に暮らさうといわれるまでは・・・。

ある日私は、風邪で学校を休んでしまった。私は風邪を引いても悟の事ばかり考えていた。そしてその時私は、親と別のところで暮らすことを考えていた。その後寝てしまい、いつの間にか親は外出していた。そして、ピンポンが鳴った。そして、ドアを開けたらなんと悟が立っていた。そしたらいきなり、「加奈子、引っ越すって本当か?」私は、少しだけ焦った。なぜ悟がそんなことを知っているのか。

私はこいつ言った。「なんで悟が知ってるの?」つて。すると悟は、「お前の親友から聞いた。なあ本当なのか?」と言られた。私は、沙紀が言つたんだと分かつた。だから私は、「先に教えてもらつたのね。そうだよ本当だよ。」と言つた。そしたら悟は「なんで!?」と言つた。私は、「でも、親は私を連れて行かないみたい。」と言つた。悟は、「だつたら!」と怒つたような口調で言つた。

そして私は、「私ね、好きな人がいるの。その人のためにも離れるんだ。」と言つた。言つても悟は自分の事だと気づかない。その後、悟に嬉しいことを言われた。「だつたら、俺の家に暮らせばいい俺もちょうど一人暮らしだったから寂しかつたし。」つて。悟と一緒に暮らせるなんてすごく嬉しかつた。

毎日ドキドキすると思う。だから私は、「ありがとうございます。」させてもううわ。明日からよろしくね。」つて言つた。私は、その後悟に好きだつて言われるなんてこの時は分からなかつた。

悟に言われるのは、あともう少しである。加奈子目線とりあえず終わり

加奈子といふ

そして加奈子と団圓する日になつた。

俺は楽しみで仕方がなかつた。

加奈子はこの気持ちに気づいていない。早く告白しなきやと分かつてこゝの素直になれず結局言えずじまいになつてしまつた訳だ・。

そして、学校が終わり「悟、一緒に帰ろ。」俺はその言葉に胸がキドキしてしまつた。

そして俺は、「別に、いいけど」と呟つた。そしたら加奈子は喜んだ顔をしていた。それを見た瞬間加奈子が可愛くて仕方がなかつた。この加奈子の顔は可愛くて仕方がない。告白したいがどうやって告白したらいいか分からなかつた。そう考へていらう時に俺の家に着いた・。

「今日から、よろしくね。」「ああ。よろしく」とこつとつ会話をしながら加奈子と家の中に入った。

いろんな場所を紹介してまた告白せよ」と一寸が過ぎてしまつた・。

でも来週加奈子と遊園地に行くことになつてこゝ。その時にまたひいきになつて思つた。

俺は、来週になるのがすぐ楽しみになつてきた。

俺は告白する内容を考へて眠つたのである・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2358p/>

幼なじみと同居！

2011年8月6日14時45分発行